

2007年10月18日 東京  
明治学院大学学長 大塩 武

リモージュ市長・代議士 アラン・ロデ様

第一次大戦の始め、島崎藤村が三ヶ月ほど滞在したりモージュ市、バビロン通り（当時）の家が、貴兄のご尽力により市の保護措置に置かれたことを知りました。

当時パリに外国人客として滞在していた藤村は、パリの下宿の女主人、リモージュ生まれのマリー・シモネの忠告に従い、リモージュ・バビロン通りの彼女の実家に疎開していました。

藤村は近代日本の最も偉大な文学者の一人であり、われわれの大学は彼が卒業生の一人であることを誇りにしております。

ヴィエンヌ河岸、バビロン通りに滞在した彼は、リモージュの静かな景色を前にして気持の真の落ち着きを得ることができ、また、戦争初期の町の住民の悩み、悲しみを分ちあったのでした。

藤村は、自分を取り巻くすべてのものを好ましく思っていました。水辺で小石を投げ、水切り遊びを一緒にした子供たち、故郷を思って時を過ぎた通りのカフェ、それに仮寓の下方を流れるヴィエンヌ河。

彼はここから、大日刊紙『東京朝日新聞』にたくさんの記事を送り、その記事はフランスの香りに飢えていた日本の読者を魅了しました。抒情に満ち、詩情にあふれた作品を生んだ藤村は、いまだに日本で最も人気のある作家の一人です。

彼の住んだ家の裏手には大きな庭があり、そこでは友人の画家、正宗得三郎(同じく有名な作家、正宗白鳥の弟)がよく仕事をしていたようです。藤村と画家の思い出に満ちたこの屋敷は、藤村愛好者の訪れたいと思う場所なのです。

明治学院大学の長として私は、この家の保護措置に対し心からのお礼を申し上げます、また、われわれの大学からのリモージュ留学生に対する暖かいおもてなしにも深く感謝いたします。

このうれしい知らせを大学の広報サイトに載せ、卒業生だけでなく、われわれの友人すべてが喜べるようにするつもりです。

深甚なる敬意を表しつつ、

明治学院大学学長 大塩 武